

# 子供たちが「わくわくする授業」を目指した、授業力向上大作戦！！

## PDCAサイクルに基づくAL授業計画～評価の工夫

◆ 所属・提案者（◎代表者）

羽生市立須影小学校

◎柿沼 宏充・伍井 祐子・石沢 麻永・  
堀江 弘美・藤岡 功

**ねらい**

若手職員が増え、教員の指導力にばらつきがある。示範授業を提供できる教員もいる反面、日々の授業をこなすのに精一杯の教員もいるため、ベテランから若手への授業の「技」を伝承していくことが急務となっている。一方、ベテラン教員も文部科学省の学びの改革を受け、自己の指導を見直す機会を持つ必要もあり、学校全体としてアクティブ・ラーニング（AL）を目指した指導力の向上を図り、PDCAサイクルの中で常に見直し改善を行っていく必要がある。そのような中、本校は全国学力・学習状況調査（全学調）、埼玉県学力・学習状況調査（県学調）の結果、「数学的思考力」や言語についての「知識・理解」に課題があることが明確になった。この学校課題を解決するため、校長から『わくわくする授業』を推進し、子供たちに学ぶ楽しさを味わわせながら『確かな学力』を身に付けさせるよう、平成28年度に目指す授業の目標が示された。本実践は、その具現化に取り組む実践で、教師の指導力を向上させ、子供たちが脳を活発に働かせた「能（脳）動的な学び（AL）」を保障する「わくわくする授業」を展開し、喫緊の課題である学力向上をチームで目指す。

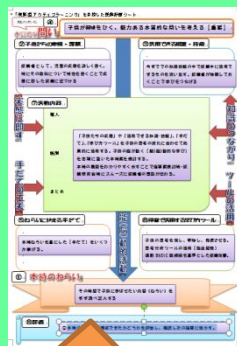
**実践内容**

以下の方策を授業改善のPDCAサイクルの中に導入していくことで、教師一人一人の授業力を高め、効果的な指導ができるようになり、子供たちの「確かな学力」は保障されると考える【資料①】。

①単元の逆向き設計ツール・AL導入シート

**Plan** 資料②・資料③

単元を可視化する逆向き設計ツール・授業を可視化するALシートを開発し、授業の内容（活用できる資源）を集め、ゴールを明確にして子供の思考の流れを「可視化」する（教師の授業構成力を育成する）。誰でも簡単に子供たちの学びを引き出す授業が計画できるよう、考える順番を記入してある。番号に沿って子供たちの実態や教育資源（ICT・思考ツール・今までの学び等）を基に学びを構築していく。



②須影BASIC（教師版）

**Do** 資料④

子供たちの話し合いを活性化させるツールを集めた須影BASIC（教師版）を配付。授業のAL導入シートとともに授業へ生かす。子供たちの学びを引き出す「声かけ集」や学び（思考）を可視化する学び方ツールを授業中に積極的に活用して、子供たちの知識を揺さぶり、より深い学びへと子供たちを誘う。



④授業研究会の充実・ジグソー型学調分析

**Action** 資料⑥

付箋紙を用いたワークショップ型授業検討会を推進することで、教員相互が協働的に学び合い、課題解決に向けた改善策を考える。この活動をとおして、それぞれの指導力を向上させる。

埼玉県学力調査・全国学力調査結果をジグソー型分析法(H27年度実践提案優秀提案賞参照)で分析し、本校の課題を見つけ、授業改善・指導に生かす。学校の課題として教師全体で共有し、他人事→自分事へと意識改革を行う。



③授業評価シートの開発

**Check** 資料⑤

教師が授業を振り返るツールとして【授業改善八策シート】を開発・導入する。※週に一度タブレットを用いた授業とAL達成度を自己評価することで授業を振り返る機会を持たせる。研究（修）主任・管理職からのフィードバックを行うことで授業の質の向上を目指す。授業評価シートを学年ごとに綴じておくことで次年度にも参考資料として活用できる。

【構想】：平成28年1月～3月

【導入説明】：平成28年4月

**実践時期・期間**

●授業研究会実施：平成28年6月～

●学力調査分析 平成28年7月下旬

## 実践の成果や課題

### 【成果】

- 授業で活用する「教育資源」や子供の「思考の流れ」が一目でわかる「単元の逆向き設計ツール・ALシート」を導入することで教師の**授業設計（構成）力が向上**した。また、授業のねらいや工夫が一目でわかり、参観者も授業者の意図を理解しやすくなった。
- 子供の学びを引き出す「須影BASIC（教師版）」を授業者が意識しながら子供と関わることで、授業のねらいにせまることができた。思考ツールを活用することで、子供たちの考えを整理することができ、活動（思考）の成果をわかりやすくまとめることができた。教師の**授業展開（運営）力が向上**した。
- 毎週1回、授業を振り返り、自己評価を行うことで**自身の授業の改善を意識**することができた。また、授業研究会で他者評価をしてもらうことで自分では気づけないポイントも見つけることができた。
- 「ジグソー型学力調査分析」「付箋紙を用いたワークショップ型授業検討会」を推進することで、**自校の課題について自分事としてとらえたり**、次の実践への**改善提案やアイデア共有**をしたりすることができた。協働的に学び合う中で若手やベテラン教師が相互に発言を重ね、教育観や技術の伝承の場となった。

### 【課題】

- 一度だけでは教師の授業力は身に付かない。子供の深い学びを第一においた授業の工夫を、活用できる教育資源とともに「単元の逆向き設計ツール」「ALシート」で可視化させ、相互に学び合うことが大切である。

## 失敗しないための方策

- 先生方の負担感をなくすため、指導案検討や授業後の改善検討の時間を区切り、視点を明確にした話し合い（協議）をすることが大切（いくら時間があってもきりがないため）。
- 目標を明確にして全員で共有しながら、同じゴール（子供たちのよりよい成長）に向かってみんなで協働的に取り組むことが大切（はじめは校内授業研究会で活用し、一般化を図っていくとよい）。

## 他校で導入するポイント

子供たちを「わくわくさせる」手法は多岐にわたる。まずは先生方に従来の指導の方法を見直す機会の必要感を感じてもらわなくてはならない。そこでまずは、逆向き設計ツール・ALシートの作成手順（順番）を意識する（例：まず①ねらいを記入②児童の実態…等）ことが大切である。授業研究会で導入することも効果的であるが、学年内で研修時間を活用して月に一度程度相互の授業を見合い、お互いを評価することに活用してもよい。先生方の（指導案を作成する）負担を極力減らし、相手に自身の授業の意図を伝えるツールとしてALシートを活用すると効果的であると考え。

- 子供たちの脳を働かせる「能（脳）動的な学び（AL）」を目指し、教師の授業力を高めます。**
  - ・子供の思考の流れ、教師の意図が一目でわかる授業計画！（逆向き設計ツール・ALシート）
  - ・子供に深い思考を促すコツをまとめた授業設計マニュアル！（須影BASIC教師版）
  - ・授業を振り返り、授業者の授業改善の基となる評価記録！（授業改善八策シート）
  - ・ベテランから若手まで多くの意見が集まり、授業力が高まる研究会！（ジグソー型学力調査分析・付箋紙を用いたワークショップ型授業検討会）
- 教師の指導観を見直し、子供たちの主体的な学びを促進する実践です。**

## セールスポイント

### こうすればより高い効果が得られる方策など

- 「子供たちに『確かな学力』を身に付ける」という目標を教職員全体で共有し、「チーム学校」で取り組むことで効果が何倍にも高まる。
- 繰り返しこのPDCAサイクルを自身の授業の中で実践することで、子供が脳を働かせたくなる「魅力ある課題（問題）」を提示できるようになれば、その後の授業展開は子供主体の充実したものになる。

学力向上について、課題解決のコンセプトを中核としたPDCAサイクルの展開を手立ての基盤に据え、授業力向上における全校的理解を統一する努力がなされている

本提案では、ALやICT導入が前提のものとなっているが、教育内容と教育方法のマッチングにおいては、その合理性が必要であることから、実践の成果を基に研究を進め、その効果を明らかにしてほしいと思う。→資料⑦「実践事例研究」

## 外部有識者からのコメント